

✓ 実験データの存在範囲を明らかにすることで、今後の研究の方向性を示す.

▶各種推算式の高精度化の試み

✓ 汎用的な熱物性・輸送物性推算法は、水素・酸素に特化にしたものではないため、 モデル定数を水素・酸素用に設定することで高精度化を図れる可能性がある。



















まとめ

- ▶ 超臨界圧力条件を対象に高温水素流れ中に置かれた低温酸素液滴の変形・拡 散の様子について数値的に検討した.
- ▶ レイノルズ数に応じて流れのパターンが大きく2種類に大別されることを示した。
- ▶ 酸素液滴の変形,あるいは温度拡散の圧力依存は,水素の密度がほぼ圧力に 比例することに起因するものと考えられる.
- ▶ 液滴寿命評価によると、低レイノルズ数パターンでは現象が熱伝導支配であることを示唆し、高レイノルズ数パターンでは移流の効果が顕在化するようになることを示唆している。
- ▶ 今後の予定·課題等
- ✓ 酸素臨界点に近い条件を解析対象とすることで、特異な熱物性の振る舞いの影響を検討する。
- ✓ 検討対象を燃焼時にまで拡張し、最終的には非燃焼時の挙動と燃焼時の挙動 を対応付ける。
- ✓ 将来的には, 蒸発モデルの構築, 蒸発・燃焼を同時に考慮可能な解析手法の確 立などを進め亜臨界圧条件までの拡張を目指す.